

学習環境部の実践

学習環境部では、子供たちが学習意欲をもち、学習習慣を定着していくためには、学校での主体的に学ぶ学習活動の工夫や学習規律の確立とともに、家庭との連携を図った家庭学習の充実に取り組む必要があると考えた。昨年度より「家庭学習の手引き」「がんばりカード」「音読カード」などを活用し、家庭学習の習慣化を図ってきた。今年度も、家庭と連携しながら、計画的・効果的な家庭学習の推進に努めてきた。

1 家庭学習の手引きについて

全校で家庭学習に取り組むことを知らせ、各学年ごとに「家庭学習の手引き」を配布し、6月から家庭学習のやり方を指導して取り組んだ。昨年度作成した手引きの内容を学年の発達段階や児童の実態に応じたものに付加修正し、家庭学習の進め方や目標時間などを具体的に示すようにした。また、甲府市から配布された「家庭学習の手引き」については学年・学級懇談会の配布資料にし、家庭学習を話題にしながら、家庭と学校で共通理解を図れるように努めた。2学期には県の「学びの甲斐善八か条」が配布され、家庭学習の充実を個別懇談などの機会に再度家庭学習への理解と協力を呼びかけた。

2 各学年の実践

各学年「家庭学習がんばりカード」を使って取り組んだ。

- 1年生：「家庭学習がんばりカード」で、夏休み・冬休みの長期休みを中心に取り組んだ。毎日、保護者にチェックしてもらい、担任が確認して返却し、家庭との連携を図りながら進めてきた。
- 2年生：「がんばりカード」を使い、自主学習（計算・音読・漢字練習）を毎日保護者に点検してもらった。児童に毎日提出させ、担任が目を通し、必要に応じて声かけを行った。声かけ後自主学習ノートに詩を書いたり、言葉調べをしたりする児童が増えた。読んだ本を記入した児童もいた。
- 3年生：「家庭学習がんばりカード」を使って、一日40分間の学習を目標に取り組んだ。長期休みには、家庭学習ワーク「つなげる算数」に取り組み、3学期からは単元終了後家庭学習として継続して取り組んだ。自学ノートの様子を学年だよりで紹介し、家庭学習への意欲化を図った。理科・社会の調べ学習やローマ字の練習、間違い直しなど、内容も増えてきている。
- 4年生：「音楽&音読カード」「家庭学習がんばりカード」を使い、一日40分以上の取り組みをさせた。3年時から方眼の自学ノートを用意し、意味調べ・都道府県調べ・理科実験のまとめ・算数の文章題・漢字、計算間違い直しなどに取り組んだ。個人差がみられ、何冊にも増える、そうでないの差ができてくる。
- 5年生：自主学習ノートを用意し、取り組んだ。「家庭学習がんばりカード」も活用させながら、50～60分間の学習に取り組ませた。毎朝、自学ノートやカードなどを提出させ、取り組み状況を担任も確認し、励ましの言葉を添えたり、シールやスタンプを押したりしながら児童の自学への意識付けを行った。「つなげる算数」を長期休みなどに取り組ませた。

6年生：自主学習ノートを用意させ、「家庭学習がんばりカード」を使って60～70分間の取り組みをさせた。自主学習ノートを期間を区切って毎日提出させるなど、工夫しながら取り組ませた。中学校を意識し、テスト前には自学ノートにも絵やグラフ、図を描いて説明するなど工夫がみられた。ノートの写真を撮り、紹介したことで互いに刺激し合いながら取り組む姿も見られるようになった。

3 成果

- ・学校全体で取り組んでいることで、児童の家庭学習への意識が高まってきた。
- ・宿題以外の自主学習をやってくる子どもが増えて、学習の分野が広がった。
- ・がんばりカードに書くことが意識付けやはげみになり、進んで家庭学習に取り組む子が増えた。
- ・自由勉強の取り組みが増えた。
- ・読書をする習慣が身についた児童が見られた。
- ・次の日の支度や宿題を忘れないよう意識することができた。
- ・がんばりカードに保護者のサインを設けることで、保護者の関心も高まり、意識付けに繋がった。

4 課題

- ・家庭学習の内容、回数ともに個人差が大きい。教師の声かけや支援は、今後も必要となっている。
- ・がんばりカードの取り組みがないと取り組む児童が減る傾向があり、更なる意識付けの必要性を感じた。甲府市、山梨県からのリーフレットとも関連させ、保護者にも伝わる本校なりの家庭教育の手引きを充実させていく必要がある。
- ・教師がどれだけがんばりカードを工夫して使うかによって、児童の意欲も違ってくるのではないか。学年の発達段階や系統性を含め、キャリア教育的視点をもってカードの工夫につなげられるとよい。
- ・学習内容や学習量の個人差がまだまだあり、取り組めない子どもへのさらなる喚起の必要性を感じた。
- ・「どんな課題に取り組むか」「自分にはどんな学習が必要なのか」など、自分自身で適切な課題を見つけながら取り組めるような力をつけさせたい。

5 来年度に向けて

- ・図書館の新聞コーナーや自学ノートを紹介する掲示コーナーなど、1学期の早い時期から、内容や方法を検討し、引き続き家庭学習に取り組ませるための手立てを考えて実践し、習慣づけたい。
- ・入学して間もない時期に、筆箱の中身や鉛筆を削ってくるなどのチェックができ、学習規律の面でも学校生活を送るための良い習慣づけとしても、今以上に定着できると思う。
- ・取り組むことで確実な意識付けに繋がっているため、来年度も年間を通して取り組む必要があると思う。